



風邪

とても長く、風邪を引いていたようだ。

そう。何年も

私のオフィスには、花が飾ってある。その花の水を変えるのが、私の唯一の楽しみだった。私の心の平安は、ふとしたことですぐ、失われてしまう。だから心の平安を保ってられるギリギリのラインが、朝、水を変えている時までだった。ひとたび仕事が始まれば、平安などと言っている場合ではない。生きることに必死で、死ぬことに必死だった。

家に帰っても、平安は戻ってこなかった。

家の中で、私は一人でいたかった。けれども何かが騒がしくて、心は波立ち、眠れなかった。

そして毎日、寝不足だった。

そんなだったから、簡単に、私は風邪を引き込んだ。

のどはいつも痛み、なにをやってもだるかった。

何かのバランスが崩れているようで、がんばっても、がんばっても、何もクリアにはならなかった。

どうしちゃったんだろう。

エレベーターに乗るたびに、私の顔は老けていった。

寒い

寒い

毛布をぴったり体に付けて、私は春を待った。

けれどもあれから何年も、私は風邪を引いたままだ。

治るだろうか、私の体は。暗くて、それでも甘い場所へ。

戻ってゆけるのだろうか。

今、私の症状は、鼻水だけとなっている。

【2017-04-16】指さし小説 第13話

<http://p.booklog.jp/book/114258>

著者：かっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile>

今回のテーマは、「風邪」でした！あまりにも身近で、現実的なので、逆にやりにくかったです。自由な翼を羽ばたかせられなかった感があります。

と、いうのも、今年に入って私は風邪を引いてばかりで、一月も一カ月くらい風邪をずっと引いて、先月も一週間くらいまた風邪を引いていたのです。症状は軽いのですが、それがずーっと続いているのが地味に苦しくて、今年には本当に大変でした。ってまだ終わってないですが。

まあ、その体験をびよーんともっと長いスパンに伸ばしてみたら、ここ数年の私の運勢の悪さにつながったので、それを物語にしました。ちなみに、私は花の水を変えたことはあまりありません！

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/114258>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト